

2013年度 幌尻岳の山岳環境保全活動報告、課題と改善策の提案

高橋 健（日高山脈ファンクラブ事務局長）

1 2013年幌尻岳清掃登山&幌尻山荘排泄物人力運搬事業結果報告

主 催 日高山脈ファンクラブ
後 援 北海道日高振興局 日高北部森林管理署 平取町 平取町山岳会
日 時 2013年9月21日（土）～23日（月・祝）
会 場 幌尻岳ヌカビラ登山口・取水ダム・幌尻山荘・登山道・七つ沼カール
参加者 参加者41名（平取町山岳会・開発職員含む）＋幌尻山荘管理人（1名）
内 容

ここ数年、天候不順が続いていたが、数年ぶりとなる秋晴れの中、事業が実施でき、参加人数も最多となった。

（1）幌尻岳ヌカビラ登山口仮設トイレチップ協力金回収

登山口トイレの協力金（2012年9月16日から2013年9月21日まで）は10,567円でした。内訳は500円玉2枚、100円玉84枚、50円玉15枚、10円玉34枚、5円玉5枚、1円玉2枚でした。運営経費は2年間で約4万円の経費がかかる。経費すべてを協力金で賄うことは不可能な状態が続いているため、会費等によって運営している。

※登山口トイレ運営にかかる経費

- ・トイレ設置敷地使用料 国有林野使用料 3,000円／1年間
- ・トイレ便槽排泄物汲取料・出張経費 33,000円／概ね2年に1回



（2）幌尻岳ヌカビラ登山口ゴミ回収及びトイレ清掃

昔の駐車場は一般車両の入山が禁止され、シャトルバスの終点として使われている。ごみの量が激減しているが、まったく無くなったわけではない。

登山口の簡易トイレ2基は、日高山脈ファンクラブが2002年に山と溪谷社などの協力を得て設置し維持管理を行っている。本来、このようなトイレは行政機関が設置すべきと考えるが、設置当時は駐車場周辺の排泄行為が酷く、行政機関による設置可能性が低く、企業支援もあったため任意団体（当会）による設置になったものである。

現在は平取町役場によるシャトルバス終点になっていることから、当会では、平取町役場に簡易トイレ2基を無償譲渡し、シャトルバス待合小屋との一体管理を要望しているが、

同意は得られていない。



シャトルバスと終点待合小屋



シャトルバス待合小屋の隣にある当会管理の簡易トイレ2基（貯留型）



駐車場清掃 ↑

清掃後の登山口トイレ→



（３）幌尻山荘トイレ排泄物汲み取り・密閉作業

幌尻山荘と屋外にある貯留式トイレの排泄物をひしゃくで汲み取り、缶に入れておいた2重のビニル袋へ投入する作業を3人一組で行った。異常なほどの悪臭が漂っているが、参加者はもくもくと作業をしている。汲み取りと密閉作業を行い、小分けにして一斗缶と4リットル缶に収納し便槽を空にした。



（４）登山道・七つ沼カール清掃作業

昨年に引き続き、山荘上部の登山道と7つ沼カールの清掃を行った。点在しているトイレ跡のティッシュを回収した。ゴミの量は減少しているが、やはりまだまだ散見された。

稜線やカールは、日高山脈国定公園特別保護地区、日高山脈森林生態系保護地域保存地区の網がかかっている。七つ沼カールもそうだが、キャンプ跡地には新しい焚き火跡が見られた。枯れ木ではなく明らかにハイマツを切って燃やしており、自然公園法違反行為である。しかし管理者である北海道庁の担当職員が管理入山したことはここ十数年聞いたことがなく野放し状態である。





(5) 幌尻山荘トイレ排泄物運搬・処理作業

ここ数年連続で参加協力をいただいている開発職員・平取町山岳会員の参加が今回もあった。総勢42名で約420kg（中身だけ）を運搬した。例年通り、下界に下した排泄物は平取町振内の振内鉄道公園トイレ便槽に投入し、作業終了となった。

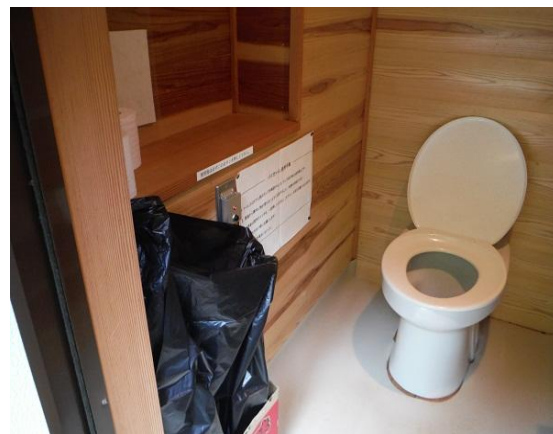
運搬量は皆さんの力量の個人差があるので、それは重要なことではなく、それよりも汲み取り、人力運搬という、人がもっとも嫌がる作業に参加するという意識、そして実際に参加されたという行為に対し、深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。





2 課題と改善策の提案

昨年度に水力発電機が日本製（日立）に交換され、順調に電力供給がされ、さらに山荘管理人の協力により、紙の分別回収（焼却処理）、分解量による利用調整が行われたことによりシーズン中、停止することなくバイオトイレが稼働していた。



それでも山荘トイレ・仮設トイレの便槽に貯まった排泄物は420kgあった。バイオトイレが順調に稼動しても山荘トイレ・仮設トイレの利用はなくなる。それは設置基数が少ないからだ。

管理者である平取町役場は、利用料金値上げによる受益者負担＝ヘリ運搬、または地元業者等による人力運搬の検討を早急にして欲しい。1,000円値上げ×利用者3千人＝3百万円で運搬代は捻出できる。受益者＝ほとんど道外在住者の多くは、自分たちの排泄物をボランティアが人力運搬していることは知らずに幌尻山荘を利用している。

山岳環境を守っていくための対価を受益者に負担してもらう方法を検討することはいいことだと思う。いつまでもボランティアが運搬するのはできないと感じている。早池峰山排泄物人力運搬の方法を、2002年に事務局長である私と幌尻山荘管理人の稲垣さん（当時はファンクラブ理事、現在は副会長）が実体験し、アレンジして元来、実施していた清掃登山を拡大し、2005年から幌尻山荘トイレ排泄物の人力運搬を実施して昨年で9年。延べ333名にもなる多くのボランティアのご協力により約4,016kgもの排泄物を運搬してきた。

当会では今後も、排泄物がある限り、その他の方法が取られないのであれば、排泄物を野山に捨てないために人力運搬を継続したいと思っている。ただし毎年のことだが、実施は予定である。バス代や参加者の保険料、ビニル袋などの消耗品といった経費は、助成金で賄われている。そのため助成金がなければ、この事業は実施できない。去年は（財）自然公園財団の公益信託自然保護ボランティアファンド活動金で実施できた。10回目となる今年も9月連休に七つ沼カール清掃を兼ねて排泄物運搬を実施したい。

山荘利用者の大多数を占める道外在住者は、（過去の当会のアンケート調査により）1,500円という山荘利用料が安すぎると感じているわけだから、利用者が減るから利用料の値上げはできないという意見が、もしあるとすると、それは的外れである。

近年、山岳地も観光資源という観点から登山客を増加させようという取り組みが全国各地で行われており、幌尻岳を持つ平取町、新冠町も出版社と連携して着地発の登山雑誌を刊行し、誘客しようという取り組みがあると聞く。登山客を誘客するのであれば、登山者が増加することの弊害（山岳環境の悪化）も事前に検証し、その対策を講じなければ片手落ちである。登山者が増えることによる山岳環境の悪化はトイレ問題に限らない。山岳環境は脆弱である。

幌尻岳平取ルートでは10年以上かけて多くのボランティアと行政機関の連携により山岳環境の改善を図ってきた。山岳環境を改善、維持するために利用調整も取り入れてきた。

日高山脈への登山者は世界自然遺産にも匹敵する日高山脈の山岳環境を求めているのであって、日本アルプスのような便利なものを登山者が求めているとは思えない。もし登山者が利便性を求めてきても、人工物を建設したり、自家用車乗入れをさせたり、など利便性を高めるという観点に立つのではなく、世界自然遺産に匹敵する優位性を日高山脈の山岳環境が持ち続けているという観点に立って、持続可能な利用方法を検討し実践していくことこそが、結果的には永続的に登山者を得ることになると思う。

関係機関が、目先の利益だけではなく持続可能な利用方法を検討、実践されることを願う。